

カラマツ人工林の施業技術を確立する

林業研究所

カラマツは、スギ、ヒバに次ぐ県内の主要な造林樹種で、スギに比べて木材強度が高く、材価も比較的高値で推移していることから、近年、造林地が増加傾向にあり、植栽や保育等の施業技術の確立が求められています。

そこで、県内に分布しているカラマツ人工林の生育状況や施業方法等を調査・分析し、本県に適した施業技術開発に向けた研究を行っています。

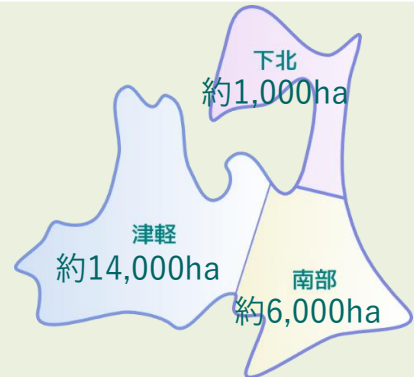
調査方法

各地方から調査地を選定し、成長・被害状況・立地環境や施業履歴を調査・分析

▷ R1年度は津軽地方(東青地域)の30林分を調査

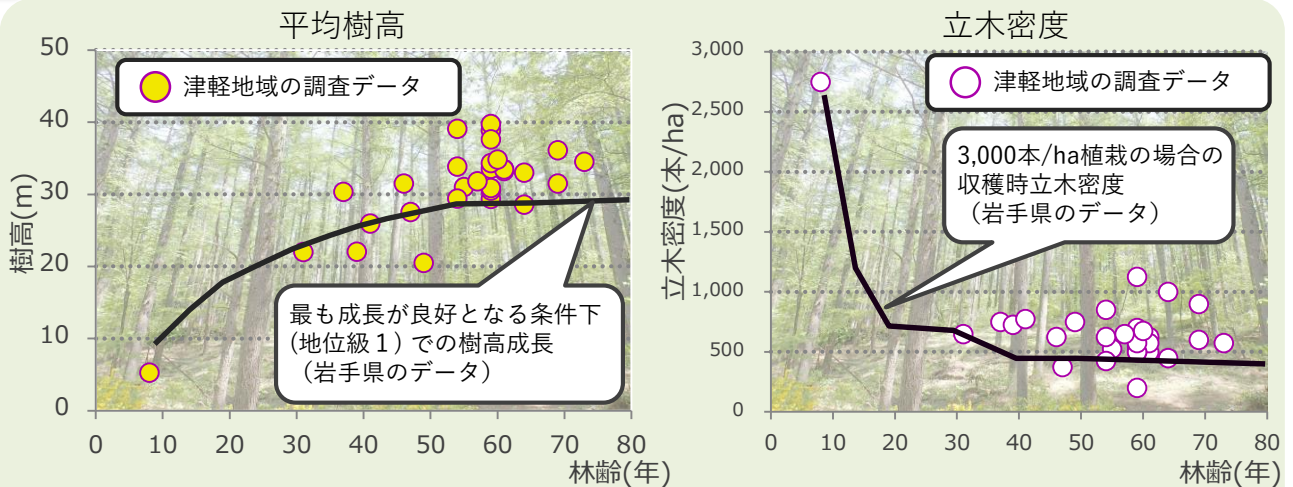


樹高(左)、胸高直径(右)の計測状況



各地方のカラマツ林面積(民有林+国有林)
※民有林面積の3%、国有林面積の4%がカラマツ林

調査結果(R1年度)



これまでの調査から、津軽地方(東青地域)30林分では

- 樹高成長は良好
- 立木密度は一般的な収穫時の密度より若干多め となっていました。

今後の展開

- ◆県内各地方における生育状況等を把握するために、調査を継続して実施します。
- ◆カラマツ林の成長と立地環境や施業履歴の関係等を分析して、造林に適する立地や適切な施業技術を検討し、林業関係者への普及を図ります。

お問い合わせ

林業研究所 森林環境部 (TEL017-755-3257)